

酒類・加工食品業界の業務効率化と標準化推進をめざす [ファイン・ファイネット]

FINE FINET

[Finet Feature Articles]

FAX変換サービス 利用による 業務効率化の推進

株式会社ニチレイフーズ
ロジスティクス部 部長
小松 唯史 様

株式会社ニチレイフーズ
ロジスティクス部 受注センター 所長
前橋 義勝 様

株式会社ヤグチ
執行役員 情報システム部長
坂本 親英 様

株式会社ヤグチ
情報システム部 課長
竹端 祥一 様

[Finet Information]

【品質230】品質系情報標準項目（加工食品）
全銀協TCP/IP手順への通信手順移行推進中！

Vol. 20
2011 Spring
ファイネット発行

FAX 変換サービス 利用による 業務効率化の推進

中小企業のパソコンの導入率は95%に達しているものの、企業間でのコンピュータネットワーク利用は29%との調査報告があります（日本政策金融公庫調査レポート）。

酒類・食品業界も同様の状況にあり、取引情報授受のEDI化は着実に進んでいるものの、まだまだ相当量がFAXや電話、郵送等の手段で行われており、今後も続くと考えられます。ファイネットでは、メーカー、卸双方の業務効率化・コストダウンを図り、将来のEDI化への道筋を付ける「FAX変換サービス（出荷案内書）」の提供を今春から開始します。

PART1ではニチレイフーズ様（メーカー）に新サービスご利用についてうかがいました。

PART2ではヤグチ様（卸店）にメーカーへのFAX発注の現状についてうかがいました。



PART 1

株式会社ニチレイフーズ

[出席者] 左より

ロジスティクス部 部長 小松 唯史 様

ロジスティクス部 受注センター 所長 前橋 義勝 様



出荷案内の現状と新サービスへの期待

——受注から発注までの日常業務および受注体制などからご紹介いただけますか。

前橋 東京に本体の受注センターがあり、熊本にインプットセンターがあります。オンライン、FAXでの受注は、熊本のインプットセンターで行っています。また、商品

の供給に関しては東京の受注センターでコントロールしています。受注の人員は、インプットセンターではフルタイムとショートタイムのスタッフがおり、総数で50名弱です。東京の受注センターは私を含めて13名です。2年前にトランスコスモス様に委託するまでは、すべての受注業務を本体で行っており、その時は全員フルタイムで総数は60名ぐらいでしたが、地方化、業務委託によって人員削減が実現しました。

——実際に商品を出荷している拠点は全国で何カ所ですか。

前橋 全部で7カ所です。北海道エリアは石狩、東北エリアは仙台、関東信越エリアは船橋、中部エリアは名古屋、関西エリア（東中国、北陸含む）は大阪、中国四国エリアは広島、九州沖縄エリアは福岡です。

——受発注に関するEDI化率はどの程度進んでいますか。

前橋 約61%でまだまだ途上段階です。

——出荷案内書のEDI化率および業務フローについて教えてください。

前橋 200弱の送り先のうち、紙ベースとEDIの比率は3対7です。EDIで

受注を受けているものに関しても、約22%は紙ベースで発送しています。紙ベースの出荷案内書は、以前はすべて受注センターでやっていたのですが、出荷案内書の出力、お得意先別仕分、封筒詰め、郵送という作業は時間とコストがかかります。そのため現在は、出荷・配送業務をグループ企業のロジスティクス・ネットワーク（以下、ロジネット）に委託しており、2日に1回、弊社で作成したマニュアル通りにお客様に発送しています。

——今回開始する「FAX変換サービス（出荷案内書）」のご利用目的、狙いについて教えてください。

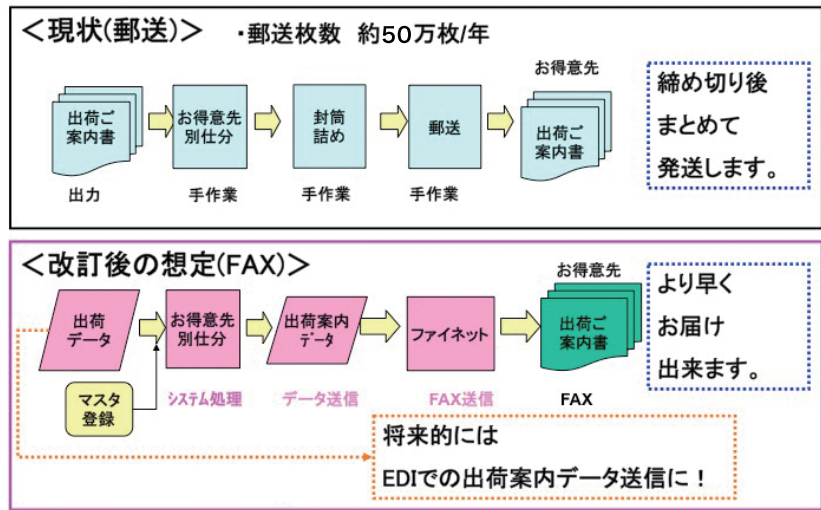
小松 もともと弊社独自でのFAX送信システムの開発を考えていました。しかし、独自でやるとなると弊社のフォーマットで卸様に提案しなければなりません。将来的にEDIにつなげるということを考えた時、フォーマットの統一が必要なのではないかと考えていたところに、「FAX変換サービス（出荷案内書）」のお話がありました。本来的には、すべての出荷案内書をデータで送るのが一番なのですが、受け手である卸様にとってはシステム開



前橋 義勝 様

発などのコストがかかり、なかなかそうもいきません。そのため、まずは紙媒体に近いかたちで提供させていただき、いずれはEDI化に移行していただきたいと考えています。EDI化による業務効率化を推進することでお客様の求めてい

出荷ご案内書処理業務フロー



く価格を実現したいと思っています。

——自社でのシステム構築や他サービスと比較したときに、弊社の新サービス導入はどのようなメリットがあると判断されていますか。

小松 データを送り出すためのシステム開発はどちらにしても必要になります。弊社は、そのシステム開発が次にどのようにつながるかという点を意識しています。将来的には卸様にもEDIでデータを受け取っていただきたいというところが大きいです。EDIでデータを受け取っていただくためには、今回のFAX送信の仕組みでEDIに近い形でデータを送信させていただくことで、卸様の方でも将来的にEDIでデータを受け取る時のイメージを持ってもらえるのではないかと考えております。弊社だけではなく、このサービスに賛同した皆様がフォーマットを統一することで、卸様にもその真意が伝わるのではないかと思います。システム開発自体は、数年で回収できるという算段ですが、それよりも何よりも将来的にEDIにつながっていくことを非常に意識して、ファイネットさんのサービスを選択させていただきました。

新サービス導入による卸店のメリット

——具体的に、「FAX変換サービス（出荷案内書）」によって卸様にどんなメリットが生まれると思いますか。

前橋 お客様は出荷案内書で仕入れをチェックしているという部分もあります。郵送では2~3日分をまとめて送っているの分、リードタイムが開いてしまいます。そうすると、お客様から出荷案内書が届いていないという問い合わせが入ってきます。FAXの場合そのリードタイムを縮めることができるので、卸様のメリッ



小松 唯史 様

トは大きいと思います。

また、ロジネットに業務委託することで作業者が固定化したため送付ミスが少なくなったものの、一部の業務はベテラン社員が人間コンピューターでやらざるを得ない部分も残っています。例えば、

あるお客様は、伝票を抜いてFAXを流さなくてはいけなとか、複数の伝票をまとめて一つの封筒に入れなくてはいけなとか、伝票と違うものを送らなければいけないとかです。このようなことがあると、ベテラン社員が休みの時などに送付ミスが発生するリスクが高くなります。そういう意味ではオートマチック化されるのは大きなメリットがあると思います。このような経験則に基づいた業務は、今後もゼロにはならないものの、FAXサービスで改善されるのかなと思います。

——最終的には出荷案内をFAXからEDIに移行していただくという話になると思いますが、これはどの程度進むと思いますか。また、移行を促進するために何か工夫できることはありますか。

小松 ここ10年で合理化のためのシステム投資ができたところと、なかなかそこまで踏み込めないところがあるのが現状です。しかしながら、そういった中でも合理化を進めざるを得ないという環境の流れは間違いなくあります。どういったかたちで進むかは別として、EDI化が止まるということはないと思います。しかし、まずはFAX化をきっちり進めていきたいですね。FAX番号のメンテナンスなど簡単にはいかない部分もあるとは思いますが、これから卸様に「FAX変換サービス（出荷案内書）」を提案する中で、個別に対応していきたいと考えています。

——いつから「FAX変換サービス（出荷案内書）」をご利用になられるご予定ですか。

小松 具体的な話は卸様に提案してからですね。弊社だけの業務合理化だけではないということを強調しておきたいです。大変魅力的なサービスなので、ぜひスタートしていきたいと考えており、時期をみてスタートという感じです。

ファイネットへの要望は

——このサービスに関して、ファイネットへの要望・期待したいことなどございましたら教えてください。

小松 卸様の立場としては、忙しい時間帯を外して、オフの時間帯に集中してFAXを確認したいと考えていると思います。指定時間に届ける機能をご用意していただきたいですね。また、FAX番号が事前にお客様側とも確認ができる仕様があると、拠点変更、事務所移転など、登録後の変更があった場合にタイムラグなしにマスターのメンテナンスができますので、そういった機能追加もご検討いただきたいですね。

現状では、どんなことができるのかイメージしづらい部分もありますが、単にデータ変換してFAXメディアに落とすだけのサービスから、もう少し付加価値のつくような新たな展開、拡がりがあるのかなと期待しています。

——今回のFAXサービスは、EDI化へのとっかかりといった側面があると思います。例えば10社から20社ぐらいの大手メーカーが連合体としてFAX変換サービスを導入していただくとEDI化が進んでいくと考えられるのでしょうか。

小松 そこまで来るのならEDIになるかもしれませんが、各社がバラバラのフォーマットで送っていたFAXが統一されたら、おそらく卸様の見方や感覚も変わってくるのではないかと期待があります。そういった考えに賛同するメーカーさんが増えてくるのが望ましいですね。ただ、卸様の中でも、請求書を手書きにしているようなところはFAXの方が便利である場合もあるので、どこまでEDI化するのが望ましいのか、難しいところがあります。

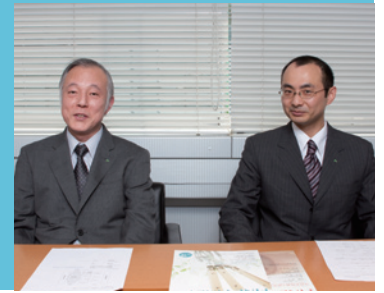
そのほか、EDIという回線開通通知などあればいいですね。間違った送り先に、明細入りの書類が届けられるとなると非常に問題です。特に一般家庭にFAXが誤送信されると何回もリダイヤルされてクレーム対象になり、信用問題につながります。弊社が独自で開発しても同じことが起きる可能性があるため、ファイネットさんにノウハウを蓄積いただいて、新規メーカーが入って来た時でも対応しやすいようにしていただけるといいのではないかと思います。



PART 2

FAX 変換サービスを利用した発注業務について

株式会社ヤグチ [出席者] 左より
 執行役員 情報システム部長 **坂本 親英** 様
 情報システム部 課長 **竹端 祥一** 様



FAX、EDI発注の現状

——ヤグチ様の受注から発注までの業務フローをご紹介ください。

竹端 お客様からEDI、FAX、電話で受けた受注データと弊社の在庫データを突き合わせて作成した発注データを、EDIまたはFAXでメーカー様に送るのが一般的です。

——受注先の総数、受注体制について教えてください。

竹端 受注先の総数は、直接受注しているのが全社合計で2,000社/月ほどです。受注は拠点ごとに行っていますが、今後は東京本社に集約していくつもりです。

——発注先のボリュームおよびEDI化率はどのくらいですか。

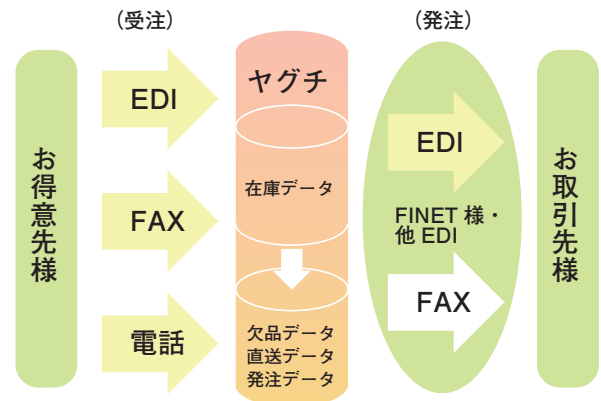
坂本 発注先は約1,000社、伝票枚数にして60,000枚/月です。そのうちEDI発注比率は約4割未満とまだ少ないので、メーカー様にご協力をお願いしています。

——発注に関して、EDI化の目的や経緯についてご紹介いただけますか。

坂本 2000年まではほとんど手書きのFAXで発注をしていました。その後、FAXで自動送信できる仕組みを自社で構築したのですが、発注件数増加につれて発注が間に合わなくなりました。また、受注入力したものを再度手動FAXで発注するのは効率が悪く、EDIまたは自動FAX送信というのは最低限必要だと考え、ファイネットさんに委託することに決めました。ファイネットさんは、コスト面、セキュリティ面、リスク管理などで安心できます。また、食品業界の細かい事情にまで精通しているので、単純に情報管理だけを行うシステム会社と比べると圧倒的に安心です。

——自社で仕組みを構築し、運用するのと比較しても差がありますか。

坂本 発注は締切時間の制約のほか、各メーカー様の支店ごとにFAXしなければならず、自社では発注量と送信時間の関係で難しい面があります。発注先は約1,000



社ですが、実際の送信先はその1.5~1.8倍ぐらいになります。

——メーカー様からのEDIでの出荷案内はどのくらいですか。

坂本 ファイネットさんを利用させていただいているのが106社です。それ以外は自社を含めてトータルで230~240社です。メーカー様からは、ある程度、発注をEDI化してまとめてくれるならば出荷案内もEDI化しますというお話もあります。まとめてEDI発注できるようにすることで、メーカー様にもご協力いただけると期待しています。

今後の展望

——弊社の和歌山センターをご活用いただく狙いなどを教えてください。

坂本 機能、安全面が同じであれば、集中しているところよりは少しでも余裕があるところの方が安心です。また作業スピードが上がることも期待しております。

——最後に、弊社へのご要望などございますか。

坂本 現状ではFAX送信用の帳票が2種類しかないのですが、その種類を増やしていただきたいですね。納品先ごとに1枚6行しか記入できず、FAXの頁数が多くなります。これを一覧表形式にできれば費用も抑えられます。メーカー様にとっても複数枚で受信するよりは枚数が少ない方がいいでしょう。

＝日本GCI推進協議会（GCIジャパン）＝

【品質230】 品質系情報標準項目（加工食品）

～実活用に向けた第一歩 小売業界説明会開催～

消費者の食品への安全・安心ニーズの高まりの中、2007年11月、「家庭用NB商品」を対象とした品質系情報の標準項目が製配販三層にて合意されました。

引き続き、さらなる標準化を目指して、2009年3月、「主としてインストアで扱われる原材料（小売業が表示上販売者となる）商品：PB特有項目は対象から外す」を対象とする『【品質230】 品質系情報標準項目（加工食品）』が品質系仕様書の標準項目として合意されました。（ファイン・ファイネット Vol.15にて既報のとおり）

*

このたび、その広報普及活動の一環として、多くの小売業が利用し、メーカーが提供している最大約数的86項目を抜粋し、活用の利便性を考慮したExcelシート『品質230標準フォーム【主要項目版】』の小売業界説明会を東京・大阪にて開催しました。今後の普及への足がかりと期待します。

*

この活動には、日本GCI推進協議会（GCIジャパン）*における『品質系情報標準項目（加工食品）ワーキンググループ』の座長として、ファイネットが積極的に関与するとともに、小売4団体とも協同で開催しました。

※日本GCI推進協議会（GCIジャパン）：製配販の流通効率化を目指す組織

- ◆開催日：東京（1月25日）、大阪（2月4日）
- ◆対 象：中小規模の小売業
- ◆内 容：①食品業界における品質系情報標準化の動向
②『品質230標準フォーム【主要項目版】』の紹介
- ◆参加者：延べ23社（31名）
- ◆主 催：・オール日本スーパーマーケット協会
・(社)新日本スーパーマーケット協会
・日本スーパーマーケット協会
・日本チェーンストア協会
・日本GCI推進協議会
品質系情報標準項目（加工食品）WG

『品質230標準フォーム』とは、

- ①メーカーの情報準備支援ツールとして
 - ②小売業・卸売業の標準商品カルテとして
 - ③初期の企業間授受ツールとして
- を目的としたExcelシートです。

※左図は、『品質230標準フォーム【主要項目版】』の一部です。

全銀協 TCP/IP 手順への通信手順移行推進中！

～4月から「ネットワーク利用料」を廃止（無料化）～

ベーシック系の「JCA手順」「全銀協手順」をご利用のユーザー様に、安全でより高速な「全銀協 TCP/IP 手順」への移行をお願いしています。この4月からは、ご負担軽減のため、全銀協 TCP/IP 手順をご使用の際に適用させていただいている「ネットワーク（EINS）利用料金」を廃止（無料化）します。ぜひ、早めの切替ご準備をお願いします。

〈移行の主旨〉

- ・ほとんどの機器メーカーがJCA手順、全銀協手順で必要なモデム等の通信機器の製造・保守を停止
- ・全銀協 TCP/IP 手順に必要なルーター等の機器は今後も安定的に調達が可能

〈廃止（無料化）料金〉

- ①ネットワーク加入料（一時金） ②ネットワーク使用料（月額）



【対象】商品流通VAN、資材VAN利用のHOST接続ユーザー
【完了時期】2012年3月末（JCA、全銀手順サポート停止）

FDB／プラネットの商品データベースと相互連携を開始

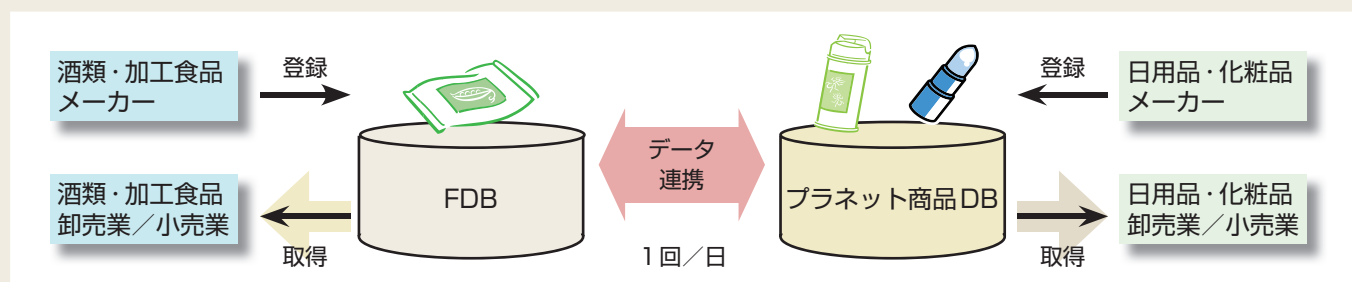
ファイネット商品情報DBサービス（FDB）では、株式会社プラネットが提供する日用品・化粧品の商品データベースと商品画像を含めた相互連携を2010年11月より開始しました。

今回の相互連携によりプラネットからは、日用品、化粧品、その他食品の約32,000アイテムが連携され、FDBは約134,000アイテムのデータ保管件数となりました（2011年2月現在）。

また、FDBからは加工食品を中心に約50,000アイテムを連携しています。

業界の垣根を越えた商品情報の活用が可能になり、フルライン化を目指す卸売業やGMSなど幅広く商品を取り揃える小売業の業務効率化に繋がるものと認識しております。

今後も関連業界の業務効率効果のためファイネットとプラネット両社は、さらなる協力を進めてまいります。



[Finet Event] ファイネット・イベント

2011年度ファイネットユーザー会を開催いたします

ファイネットでは、弊社取り組み内容のご紹介とともに、ユーザー間の交流をさらに深めていただくべく毎年ユーザー会を開催しております。

昨年は、東京会場で125社264名、大阪会場で40社74名のご参加をいただきました。

本年も皆様のご参加をお待ちしております。

(営業推進部)

大阪会場：5月25日(水) 東京会場：5月31日(火) 詳細につきましては4月下旬に決定する予定です



「緊急避難システム」接続訓練を実施しました

2010年10月18日～22日、首都圏における大規模災害への備えとして、関西地区に構築した「緊急避難システム」へ接続先を切り替えていただく訓練を、商品流通VANサービスのユーザー企業様約100社と実施いたしました。

2011年度も業界共有インフラとして、災害時により多くのユーザー様に業務を継続していただけるよう訓練を計画しております。詳細は、決まり次第ご案内させていただきますので、より多くの企業様のお申し込みをお待ちしております。

(運用管理部)

[Finet Announcement] ファイネット・アナウンスメント

毎月の請求書がダウンロードできます

請求書が到着する前に請求書データをインターネットで閲覧・取得できるサービスをご利用いただけます。下記URLの手続きサイトより、請求書データを必要に応じてお取りください。

この手続きサイトでは、請求書宛先のご変更、請求書データ取得の準備が完了した時の通知先メールアドレスも設定できます。通知先メールアドレスのご登録がお済みでない方は、是非ともご登録をお願いいたし

ます。また、ご登録されたメールアドレスに不備があり、通知が届かない方も多数いらっしゃいますので、誤りがないかご確認をお願いいたします。

ユーザーの皆様へ、ご活用いただければ幸いです。

(1)手続きサイト

URL <http://www.finet.co.jp/fts>

(2)手続きサイトのご利用が不明の場合のお問合せ先
ヘルプデスク 0120-091-094



FINE FINET (ファイン・ファイネット)

Vol.20 2011 Spring 2011年3月25日発行

[発行] (株) ファイネット 東京都中央区日本橋兜町13-2 偕成ビル(本館)7F 〒103-0026
Tel.03-5643-3400 Fax.03-5643-3499 [編集・発行責任者] 仲小路 啓之



<http://www.finet.co.jp>